

## 各館開催講座のご案内 (2018年12月～2019年3月)

### 新潟県立近代美術館

改修工事のため休館中  
(～2019年8月末\*予定)  
TEL 0258-28-4111  
長岡市千秋3丁目278-14  
<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

### 新潟県立万代島美術館

TEL 025-290-6655  
新潟市中央区万代島5-1  
朱鷺メッセ内 万代島ビル5階  
<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

### 新潟市美術館

TEL 025-223-1622  
新潟市中央区西大畑町5191-9  
<http://www.ncam.jp/>

### 新潟市新津美術館

TEL 0250-25-1300  
新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1  
<http://www.city.niigata.lg.jp/nam/>

| 開催日時   | 講座名/講師                                | 講座内容  | 会場、申込、定員など  |
|--|---------------------------------------|---|---|
| 新潟市美<br>12月15日(土)                                  | <b>ピカソとロシア</b>                        | 20世紀の初め、革命前のロシアでは、ピカソやマティスの革<br>新的な芸術にいち早く反応したコレクターや芸術家がいまし<br>た。のちにロシア・アヴァンギャルドと呼ばれる大きな動きを<br>生み出していききっかけとなった、ピカソとロシアのつながり<br>をご紹介します。   | 新潟市美術館<br>2階講堂  |
| 14:00～15:30  | 前山 裕司 (新潟市美術館 館長)                     |   | 無料/申込不要/100名  |
| 新潟市美<br>2019年<br>1月19日(土)                          | <b>ウィリアム・モリスと19世<br/>紀後半のイギリスの暮らし</b> | ウィリアム・モリス (1834-96) がデザインした草花がモチ<br>アの甘美な壁紙やテキスタイルは、今日でも世界のベストセ<br>ラー商品です。しかし、彼がそうした製品を通じ「素敵なく<br>らし」を描かなければならなかったのは、「そうでない現<br>実」が英国社会に蔓延していたから。時代背景からモリスの意<br>義を見つめます。                | 新潟市美術館<br>2階講堂  |
| 14:00～15:30  | 星野 立子 (新潟市美術館 学芸員)                    |   | 無料/申込不要/100名  |
| 新潟市美<br>2019年<br>2月16日(土)                          | <b>イタリア・マニエリスム<br/>と芸術家列伝</b>         | これぞ美術史のマイナージャンル! ?ルネサンスとバロック<br>の間には「マニエリスム」という美術様式の時代がありまし<br>た。今から500年前にヨーロッパを賑わせた、ちょっと不思議<br>でヘンテコリン、個性豊かな芸術家たちの作品とその人生に<br>まつわる物語をご紹介します。   | 新潟市美術館<br>2階講堂  |
| 14:00～15:30  | 児矢野 あゆみ (新潟市美術館 学芸員)                  |   | 無料/申込不要/100名  |
| 万代島美<br>2019年<br>1月26日(土)<br>2月17日(日)<br>※変更になりました | <b>大正から昭和初期の日本<br/>画：国画創作協会を中心に</b>   | 大正7年、既存の日本画壇に異を唱えた土田麦僊ら新進気鋭の<br>画家達によって「国画創作協会」が結成され、数々の名作、<br>話題作が生み出されました。大正から昭和初期にかけては近<br>代日本画が大きく変化した時期。当時描かれた多様な作品の<br>魅力についてお話しします。  | NICOプラザ会議室 (朱<br>鷺メッセ内) 万代島ビル<br>11階)<br>万代島美術館ロビー<br>※変更になりました |
| 14:00～15:30  | 池田 珠緒 (新潟県立万代島美術館 学芸員)                |   | 無料/申込不要/30名   |
| 新潟市美<br>2019年<br>3月3日(日)                           | <b>エドワード・ゴッリーの<br/>不思議な世界</b>         | 子供も大人も夢中になる絵本作家、エドワード・ゴッリー<br>(1925-2000)。その世界観は様々な「不思議」に満ちていま<br>す。驚くほど緻密なモノクロの挿絵や、グロテスクな物語を<br>軽快なリズムで紡ぐ彼の作風は、多くの読者に「不気味」<br>「怖い」と評されてきました。ゴッリーがインタビューで語っ<br>てきた言葉を引用しながら、作品の魅力に迫ります。 | 新潟市新津美術館<br>1階レクチャールーム  |
| 13:30～15:00  | 斎藤 未希 (新潟市新津美術館 学芸員)                  |   | 無料/申込不要/60名   |
| 新潟市美<br>2019年<br>3月16日(土)                          | <b>世間を騒がせた画家たち</b>                    | 藤田嗣治 (1886-1968) や東郷青児 (1897-1978)、岡本太郎<br>(1911-1996) は広く一般の話題をさらった文化的スターで<br>した。彼らのような存在は、今の美術界にはいないかもしれ<br>せん。戦後日本の文化史・風俗史を彩った画家たちの逸話を<br>通じて、世の中と美術との関わりを考えてみます。                    | 新潟市美術館<br>2階講堂  |
| 14:00～15:30  | 藤井 素彦 (新潟市美術館 学芸員)                    |   | 無料/申込不要/100名  |